

諏訪市遊楽図屏風

(諏訪市)

諏訪神社（現・諏訪大社）のにぎわいを捉えた屏風で、江戸時代前期の作とされる。上社と下社を描いた一対があり、各縦1.7尺、横3.46尺。かつてあった神宮寺がそれぞれ描かれ、神と仏を一体のものとしてみる「神仏習合」の姿に触れることができる。

上社隻には本宮と前宮をはじめ、神宮寺の普賢堂と五重塔、門前町を表現。下社隻には春宮と秋宮を中心に、同寺の千手堂、下諏訪宿を行き交う旅人などが写し出されている。

2000年に寄託を受けた諏訪市博物館。諏訪大社、諏訪信仰、御柱祭などの企画展に合わせて飾っている。館内では屏風に関する写真集を提供。希望のあった団体には、屏風のミニチュアを作るワークショップも行っている。

学芸員の児玉利一さんは「中世末から近世初頭にかけての諏訪社のにぎわい、建築物の様子が分かる大変貴重な資料」としている。

至岡谷市

諏訪市博物館

神宮寺

岡谷茅野線

諏訪大社
上社本宮

至茅野市

2004年3月29日指定
所在地／諏訪市中洲171-2
管理者／諏訪市博物館
連絡先／電話0266・52・7080

報 日 野 長

日 金 9月1日 2023年(令和5年)

(C)

